

協和学園
KYOWAGAKUEN

協和学園だより

北小・第四中学校
2
平成19年12月18日
小中連携事務局

【協和学園公開研究会】

十一月十五日（木）に、教育関係者の方々を始め地域・保護者の皆様をお迎えし、協和学園公開研究会を行いました。今年、

「義務教育九年間の学びを見通した授業づくり

問題解決力を育む指導の工夫」

を研究テーマとし、小中学校の職員が授業を見合ったり児童・生徒にどのように指導すると良いのかということについて話し合ったりしてきました。

小学校・中学校では指導方法や学習内容の違いはあるけれども、

- ・今この学年で、どのような力をつけておくといのか
 - ・この学習は、どこにつながっていくのか
 - ・今までどのような学習をしてきているのか
- ということを大切にしていこうとしています。

今回、皆様方からご指導していただいたことをこれからの指導に生かしていきたいと思えます。



「小中連携の必然性と授業改善の緊急性」と題し、福山大学人間文化学部心理学科松田文子教授の講演が行われました。講演の中で社会の変化の特徴として次の5点を挙げられました。



『成長が加速化』 思春期が早まっていること。

『少子化と核家族化』 子どもの変化や家庭内で学ぶ人間関係が非常に少なくなる。

『子どもが「授かるもの」から「作るもの」に変化』

子ども観というものは、大きく変わってきた。つまり、それは、親が子どもを思い通りにしたいという発想に近づくことになっている。

『価値観が多様化』 みんな同じことを考えていた農耕型の社会から、みんな違うことを考え、話すことで伝えあい、分かり合うしかないという高度な社会性が求められるようになってきた。

『経済的な豊かさで生きがいの喪失』 食べるために生きるのではなく、生きるために食べている。従ってなんのために生きるのかという意味が重要になってくる。

子どもたちが、このように高度化した文明社会を生きるためには、この義務教育9年間で「何を」「いかにして育てるか」が常に求められています。緊急の課題として組織的対応が必要であり、**小中一貫教育はその知恵であると締めくくり、**今後の小中一貫教育の方向性を示していただきました。

【ピア・サポートプログラムの完成形】

受講者から実施者へ 小学校

ピア・サポートとは、仲間同士が支え合う「事実」のことを言います。平成十七年度から仲間同士が支え合うために自分に必要なことを学ぶピア・サポート訓練を行ってきました。この学びを自分たちだけの学習のみにとどめることなく、学んだ経験を生かして下学年に伝える取り組みを行いました。

6年生が4年生のときに学んだことを今度は実施者として3・4年生に乗り入れる取り組みです。この形こそ「仲間同士が支え合う姿」そのものだと言っていきます。

事前に行ったサポートのありがたを思い出しながら、「何とか分かってもらいたい。」という6年生。6年生の支えの中で一生懸命に考える3・4年生。とても温かな空気が教室中に満ちあふれた時間となりました。

協和学園では今回の授業を小中合同研修会に位置づけて全教職員に公開し、福山大学の大学院生も交えて事後研修を行いました。児童・生徒の自己実現をめざすには、事前の取り組みが大切であることを確認しています。



【小中合同ボランティア】

「異年齢交流で育てるピア・サポート精神」



十月二十二日、小中合同ボランティアを行いました。今年は、日頃お世話になっている地域に、何か役立つことをしたいということで、北公民館の清掃活動を行うことにしました。中学校の生徒会が中心となり、小学校の児童会と協力しながら行いました。

七つの縦割り班になって、各担当の清掃場所を一生懸命掃除しました。中学生は、小学生に指示をだしたり、一緒に作業を行ったりしながら、責任感の感じられる、年上らしい言動がとれていました。小学生も中学生や年長児童の指示に従い、熱心に活動していました。短時間であったので、物足りなさを感じる児童・生徒もいましたが、終了した時は、清掃終了箇所のように、すっきりとしたすがすがしい、いい表情と達成感に満たされました。

このようなピア・サポート精神を活かした異年齢交流を行うことは、特に中学生にとっては、自分への自信を高めることに効果的といえます。そこで、これからも、この小中合同ボランティア活動を小中一貫教育活動に位置づけ、生徒の自己効力感を高める取組を行っていききたいと思えます。